

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成30年11月3日(No.115)

浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所



コミュニティ・スクール研究大会(三笠市)

■平成30年10月、三笠市で開催された「2018 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 三笠」に、浦幌町から10名の教育関係者が出席してきました。

道内で初めてCSを導入した三笠市で

全国大会が開催された意義は大きく、4つの分科会、歓迎の器楽演奏、講演、パネルディスカッション等が行われ、全国各地の多様な実践をもとに熱心な討議が行われました。



開会式、パネルディスカッション

(第1分科会)

テーマ「CSの効果的な導入」

○(例) 栃木市教育委員会の発表

・小中一貫教育と組み合わせることでCSを導入した。中学校区を単位とした学校運営協議会で組織的・継続的な支援体制を整備し、小中一貫教育を推進している。

・小中一貫教育の推進や教職員の

多忙化解消(働き方改革)に繋がるよう学校・家庭・地域の連携・協働を進めている。

○コーディネーターからの助言

・何のためにCSに取り組むのか、「熟議」を通して望ましい子ども像や目標・ビジョン、地域の課題などを共有することが大切である。当事者意識を高める仕組みや取組がいっそう重要になってくる。

・CSは人づくりや地域づくりの一貫ととらえ、学校運営協議会と地域学校協働本部の両輪で進めていく必要がある。今後、地域学校協働活動の推進が期待される。

(パネルディスカッション)

テーマ「地域の未来を創る子どもを育むコミュニティ・スクール」

○パネリストの主な発言

・CSの活動が広がることで、地域の人たちは学校を支援する喜びを感じ、子どもたちは「地域貢献」を通して有用感や肯定感を養うことができる。

・CSは理想の教育活動を展開する絶好の機会となる。熟議・協働・マネジメントの機能を生かしてCSを前進させて欲しい。働き方改革にも繋がる



歓迎アトラクションの器楽演奏